



「We MOVE.」を合言葉に 働き甲斐のある 魅力的な産業へ

一般社団法人日本医薬品卸売業連合会 会長 宮田 浩美

本日は大変お忙しい中、卸連セミナーにご参集頂き、誠にありがとうございます。

ご参加の皆様方には、日頃から卸連合会の運営に多大なご協力を頂き、重ねて御礼申し上げます。

本年5月には、新型コロナが5類へと移行され、生活も平常化しつつある一方で、ジェネリック医薬品の出荷調整や医療用解熱鎮痛薬等の限定出荷、季節性インフルエンザへの対応など、困難な状況が続いています。引き続き、製薬企業、医療従事者の皆様、医薬品卸が一体となって、この状況を乗り越えてまいりたいと思います。

本年6月に、有識者検討会の報告書がまとめられ、流通、薬価制度、産業構造等に関する課題について、対応の方向性が示されました。

先日の中医協では、必要な薬を患者様に届けるため、薬価20円未満の医薬品と安定確保すべき医薬品の薬価引上げの検討を卸連合会として要望しましたが、各関係者の皆様にも共感を頂けたものと思います。また、流通改善については、流通改善ガイドラインの実効性を上げるべく改訂に取り組んでいます。

現在、医薬品卸の経営環境は極めて厳しい状況にあります。だからこそ卸連合会が一丸となって、卸業界を変えていくチャンスでもあり、コンプライアンスを徹底しながら、過去からの「古い商習慣」を変えていくことが重要です。

そのためには、医薬品卸は、自らの規範にのっとり、他者に依存せず、自ら行動する「じりつ」が求められているのではないかと考えています。

時代が大きく変化する中、医薬品卸は、商習慣を変えていく。流通改善に適切に対応していく。これまで変えることの出来なかったことに、勇気を持って取り組んでいかなければなりません。

現在、医薬品卸は、需給調整や限定出荷への対応

などもあり、現場の社員が疲弊し、若手を含め、離職者が増加しています。

卸連合会では、医薬品卸で働く皆様が自信と誇りを持って働ける職場環境、働き甲斐のある魅力的な産業を目指し、「We MOVE. 一医薬品卸業界から医薬流通産業へ」を打ち出しています。

先日、阪神タイガースが見事、38年ぶりに日本一となりましたが、岡田監督はスローガンを「アレ」と言い換え、「アレ」を合言葉に、チームを一つにまとめ上げました。

当連合会で言えば、合言葉は「We MOVE.」です。「医薬品卸で働きたい」と、次代を担う若者にも共感してもらえるよう、医薬品卸各社が一緒になって、この新たなビジョンの実現に向かってまいりたいと思います。

私たち医薬品卸の使命は、平時であっても、有事であっても、医薬品を途絶えさせることなく、医療の一翼を担う者として、国民の皆様の安心・安全な医療に貢献していくことです。

そのために、私は、卸連合会として、足元の課題への対処はもちろん、医薬品卸をもっと世の中に知って頂くための活動にも積極的に取り組み、医薬品卸の存在意義や卸連合会としての考え方を業界内外にしっかりと発信していきたいと思っています。皆様方には、引き続き、多大なるご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本日は、厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課の水谷課長、医療情報システム開発センターの山本理事長、市立大津市民病院の日野院長、日本製薬工業協会の上野会長にご講演頂きます。本セミナーがご参加の皆様にとって、実りある時間となりますことを心から祈念して、開講のことばとさせていただきます。どうぞよろしく願い申し上げます。